

会 議 録

内 容：平成 26 年度軽井沢町グランドデザイン像作成に伴う会議（第 15 回/全 25 回）

場 所：軽井沢町役場

日 時：平成 26 年 11 月 12 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分

出席者：軽井沢町（藤巻町長（途中参加）、企画課（横島参与、依田課長、森室長、遠藤、春原、副町長）
udc(護、小野寺、辻), 小野寺事務所(上條), アトリエ T-plus(南)

①町民説明会について町より説明があり、確認を行った。結果下記。

◆パネル展示について

・エリアデザインについては印刷物で、グランドデザインについては町民が人目に触れる事
機会として原画を設置予定である。（町／遠藤）

→原画については、取扱いに注意する必要がある。（小野寺）

→原画は額装するが、重さもあり展示の取扱いが難しいため、印刷物を展示する事とする。
（町）

◆配席について

・定員が 90 名だが、それ以上の出席者が入った場合はどうするのか。（町／依田課長）

→その場合は椅子を出して対応する。（町／森室長）

→椅子を多く出すと後ろから座る事となる。前から座ってもらうためにも、人が増えてから
椅子を出すようにする。（町／依田課長）

・テーブルは必要か。（町／依田課長）

→資料（冊子）があるので、机があった方が親切ではある。（小野寺）

→町の一般的な説明会では椅子のみである。（町／依田課長）

→最終判断は町で行う。（横島委員）

◆プログラムについて

・中村委員長から、与えられた時間の中で話をさせて頂く事とするが、注文があれば意見を
下さいとの事であった。（事務局／護）

→中村先生メッセージに対する注文は、町長とのバランスも考えて私から連絡する。（横島
参与）

・中村委員長から挨拶とメッセージを頂く事になっているが、1 つに集約できないか。挨拶
の 5 分をメッセージの時間にまわし、10 分から 15 分とした方が良い。（横島参与）

→中村委員長の話は集約し、メッセージとして 15 分頂く事とする。

・質疑は 30 分で良いか。（町／森室長）

→意見を長く話す方もいる。終了は 20 時 30 分とする事を冒頭の段階で説明する方が良い。
出来るだけ多くの方に質問して頂くためにも、1 人 1 回 3 分とする等で工夫する。質疑応
答のシナリオも作成しておく必要がある。（町）

◆町長説明資料について

- ・100 年未来デザインのキャッチコピーは、詩的でハイレベルなため、説明していると時間がかかる。そのため説明資料から削除した。今回の議会、町民へはエリアデザインを中心に説明する方向として整理している。また、字も少なくし、絵を中心とした構成にしている。（横島参与）
- ・エリアデザインの地区名は分かり易くした方が良い。（横島参与）
- 遠くから見ても地区名が分かるように、色分けする等で表示を強調する事とする。（町）
- ・どの様な質問があり、どう回答するかについては対策を考えておく必要がある。（町／森室長）
- ・「いつランドデザインが完成形になるのか」という質問はくるはずである。その回答としては100年先となるのか。（副町長）
- エリアデザインについては、50年先に向けて実施できるものから計画に盛り込む事となるが、それについても、来年度以降から立ち上げ予定である「22世紀フォーラム」の準備会で検討していく方向とする。あくまでも町側だけの計画ではなく、町民や企業の方の参加も必要である考えを示したい。（町／依田課長）
- ・100年先の軽井沢を絵にしたものがランドデザインである。この絵で何が理解できるのかについての質問に対する良い回答はあるか。「100年先の夢のある絵」として提示している事は説明が必要である。（町／依田課長）
- その答えは誰が答えるにしても、町長が事前に説明するにしても、今井さんのコメントに出てき「絵（画）と語って欲しい」という言葉は簡単だが重みがある。
絵の中には、実に丁寧に一つ一つの想いが単体として入っており、それによって100年見らデザインが成立している。（例えばLRTや最高裁等）その様な見方で見て欲しい。ファーストインスピレーションで評価するのではなく、細かく覗き込んで想いを感じ取って欲しい。100年先の軽井沢を語りつくすだけの絵が100点満点で描ける事は至難の業であるが、かなりの想いが絵に込められている。その事については、町長に自信を持って説明してもらおうのが一番良い。（横島参与）
- 変えている部分と変えていない部分がある。豊かな自然と共に調和して暮らしていく事は、100年後も変わらない。そのメッセージは明確に出ていると思っている。（小野寺）
- 吉田初三郎が絵を描いた100年前から軽井沢の道路形態等は変わっていない。その部分については今後も変える気はない。別荘地について開発をするという考え方も一切ない。そこを意思統一するための絵でもある事は伝えたい。パブリックコメントや子供たちの絵に出てきた案でも軽井沢の自然を守って欲しい事は一番多く出てきている。そこは頑なに守っていくイメージとしてある。（町／依田課長）
- 最大のメッセージはそこかもしれない。「変わらない軽井沢」と「絵の中に相当多くの想いを込めている事」の説明については町長コメントに入っていない。町長のコメントとされているのか、冒頭の課長説明で入れるのか。そこを決めてもらえば、用意はできる。
- 町長の言葉で説明して頂いた方が良い。（町／依田課長）
- 町長挨拶の時に、まずはその様なランドデザインの前提として作成した絵（画）についての説明をして頂く事とする。（横島参与）

- ・一般住民からの想定問答で、会場が盛り上がる良い質問と回答はあるか。（町／依田課長）
- 何を大事にし、何を排除していくのは質問があるかもしれない。その時の回答としては、利便性を追っかけているのではなく、時に不便かもしれないが、自然と共生した人間らしい豊かな暮らしを重視している事が伝われば良い。（小野寺）
- 利便性を求めるものではない事を答えにする質問があれば良い。（町／森室長）
- ・「自分の土地や建物が壊されているが、どうなるのか」という質問は出るかもしれない。（小野寺）
- ・特にエリアデザインの新軽井沢や中軽井沢では、大幅な都市再開発の絵となっている。質問がくる可能性は高い。（副町長）
- 新軽井沢の駅前には草軽の土地であるが、絵を見せ理解をして頂いている。（町／依田課長）
- ・新軽井沢駅東にしなの鉄道の民間ディベロパーの開発計画がある。地元説明会で評判が良いと聞いている。民間の計画とランドデザインに整合性があるかという質問が出た時の答えは統一しておいた方が良い。町長が答える事になるかと思うが、民間から出てきた案はランドデザインに沿っていなくても認めるのか（受け入れるのか）、認めないのか（受け入れないのか）は、具体的に答えざるを得ない。（横島参与）
- これからでも開発計画は出てくる。直近には検討していく事であるが、ランドデザインには入れていないという方向は答える必要がある。（町／依田課長）
- ランドデザインに載っていないものが駄目ではなく、ランドデザインの理念や精神に適合するかは町の開発申請許可の斟酌の材料にはなる。この様な事まで言えるか。
- ・「50年、100年先より現在の事はどうするつもりなのか」という質問は出てくる可能性がある。（副町長）
- ・似た様な事柄だが、地方創生会議や国の国家戦略である地方活性化は雇用創出や中央経済の活性化が眼目であるが、ランドデザインには経済政策について触れていない。国と政策との整合性について問われた時にどう答えるのかについて、中村先生が心配していた。これについても意思統一が必要である。（横島参与）
- 町長には、このランドデザインは良いものだと言ってもらいたい事と、民間計画との関係、経済の関係をどの方向性とするのかは、横島参与から町長に概念として押さえておくべき事を説明して欲しい。事務的には準備する。（町／依田課長）
- ・新軽井沢の計画は具体的な絵まで出てきている。大手ディベロッパが宿泊アミューズメント施設（会議場、ホテル、温泉施設、スポーツ施設、公園等）を計画する案が出ている。町民説明会での評判が良いので無碍に無視は出来ない。（横島参与）
- 開発申請時に町が許可しなければ、しなの鉄道は許可しないと言っているが、しなの鉄道の土地である。町はある程度の規則に定まっていれば認めざるを得ない。町長としては新幹線で東京から軽井沢に来てトンネルを抜けた時には、山の稜線が綺麗に見えるが、ここに建物が建った場合は壁になり見えなくなる。軽井沢の玄関口としては良くないと思っている。しかし、そうは言っても町長の立場で駄目だとは言いきれない。（町／依田課長）
- 軽井沢に入ってきた瞬間のおもてなしの姿を重視したい考えは必要である。高さ制限する等の協議はした方が良い。（小野寺）

- ・近すぎるので、1階でも壁になる。町が土地を買い上げ公園化する等で軽井沢らしい風景をつくるスタイルになってしまう。新軽井沢商店の活性化に繋げる事も重要である。(副町長)
- 山の稜線は見えなくなるかもしれないが、せめて建物の手前に緑を配置し、緑を見せる事はあり得るのか。(小野寺)
- あり得ない。線路脇に樹木設置が出来ない。(町/依田課長)
- ・町長がどのような言葉を使用するかは別として、民間から提案される大規模開発については、ランドデザインが目指している基本的な思想、理念に基づいてチェックを行い、未来の軽井沢のためになるか慎重な態度を取りたいという事を自信持って説明する所までしか言えない。(横島参与)
- それを言う事も難しい。(副町長)
- ・雇用促進の面から見れば、雇用創出能力はある。(横島参与)
- 駐車場が計画されていない。地区からは渋滞対策の問題も出ている。(町/依田課長)
- ・新軽井沢は様々な案が入っている。どの順序で進めていくのかも質問に出てくる可能性がある。(横島参与)
- 順番についても町と町民で検討していく方向が良い。(町/依田課長)
- フォーラムのテーマである。フォーラムで語り合い、勉強し合い、順序付けをし、具体的な計画立案を行う形が安全である。(横島参与)
- ・長期振興計画との関係は。(横島参与)
- 50~100年後なので、現在の第5次長期振興計画とは引っかからない。(町/依田課長)
- 町長に明確に答弁してもらう必要がある。(横島参与)
- そう考えると、新軽井沢東側の事もランドデザインに絡める必要はない。(町/依田課長)

【横島参与から町長に説明】

- ①町民からの質問も含めて、今回のランドデザインに対して町長が確信を持って説明して頂く事が一番である。
- ②100年未来デザインに込められている想いについては、始めの挨拶で説明して欲しい。その眼目は2つある。
1つ目は、吉田初三郎の時代から今でも変わらなかったものは、これから100年後も変わらない事、つまりトータル200年、軽井沢は必要以上の変化はしない事がこの絵の中には表現されている事を読みとってもらう。特に緑の部分は手を付けない所は100年後も手を付けない。この様な読み取り方が、このランドデザインの最大の狙いである。
2つ目は、絵の中には、一つ一つ細かい所に小さな想いから大きな想いまで込められている。イマイさんは絵と語り合っていて欲しいと言っている。その想いを理解して絵を見て欲しい。実現可能性のあるもの、ないものを含めて、実に細かく丁寧に議論の集積が絵に表れている。そこを読み取り語り合っていて欲しい。絵で示す軽井沢100年未来構想は成功したという確信のもとで説明して頂きたい。
- ③答えに窮する質問は出てくる。新軽井沢はランドデザイン内で様々な提案をしているが、新軽井沢の民間ディベロッパーの構想との整合性、計画上の取り扱いについては質問

が出る可能性が高い。どこまで回答可能かは用意が必要である。

④経済問題については、中村先生が心配している。国の方針である地方創生の雇用創出との整合性がとれているのかの質問は出てくる可能性がある。これについても回答を用意する必要がある。

→・冊子の解説版は内容が深い。一度だけではなく何度でも読み返してもらいたい。この事は強く言いたい。

・参与が言った様に「変わらない軽井沢もある」事は、パブリックコメントや子供たちの絵にも多く出ている。その未来像についてはしっかりと再確認していく事は伝えたい。

(藤巻町長)

・新軽井沢のペDESTリアンデッキは問題視される可能性がある。(藤巻町長)

・東側の民間ディベロッパーについては、どう対応するのか。(横島参与)

→ランドデザインとは別問題である。しかし、軽井沢の玄関口であるため、慎重な土地利用は必要であり、別でしっかりと検討していく方向としたい。(藤巻町長)

・寄せられたパブリックコメントの内容が良く盛り込まれている。一部の委員のみの意見ではない事についても強調したい。(藤巻町長)

→町民の意見をなぜ入れなかったのかについて質問がくるかもしれない。しかし、もし一人の町民をいれたら、必ずその人だけが有利になってしまう。公平な町民代表は町長である事は、公共的な平等性になる。これは非常に良い論法である。(横島参与)

◆冊子納品部数について

・15,000部で全戸配布が可能である。(町/森室長)

・回覧で回すと何部必要か。(町/依田課長)

→600部程度である。(町/遠藤)

・議員と町に来た方にも配布する必要がある。(町/依田課長)

→契約では500部であるが、5,000部とする。(護)

◆原稿掲載について

・「新都市」の雑誌掲載ができないか。公的な雑誌掲載が出来ればと考えている。(横島参与)

→「新都市」の事務局と調整してみる。(護)

○次回について

・次回は、町民説明会の平成27年12月12日(金)とする。

○配布資料

1. 次第
2. 町民説明会のプログラム
3. 町長説明会資料(案)
4. 軽井沢冊子

以上